

## 「国家安全保障」ではなく「国民安全保障」を!

岐阜県社会保障推進協議会 会長 土井 正則

昨年7月から開始した「医療機関の維持存続への支援を求めた請願書名」は、目標5,000筆(岐阜県医連)に対して8か月で6,000筆近い署名が集まりました。ご協力いただいた皆様にあたたかためにお礼申し上げます。短期間での運動の広がり、3年ぶりに3%超の診療報酬のプラス改定を実現しましたが、医療界の求める水準には到達していません。

### 自民・維新は医療費を4兆円削減しようとしています

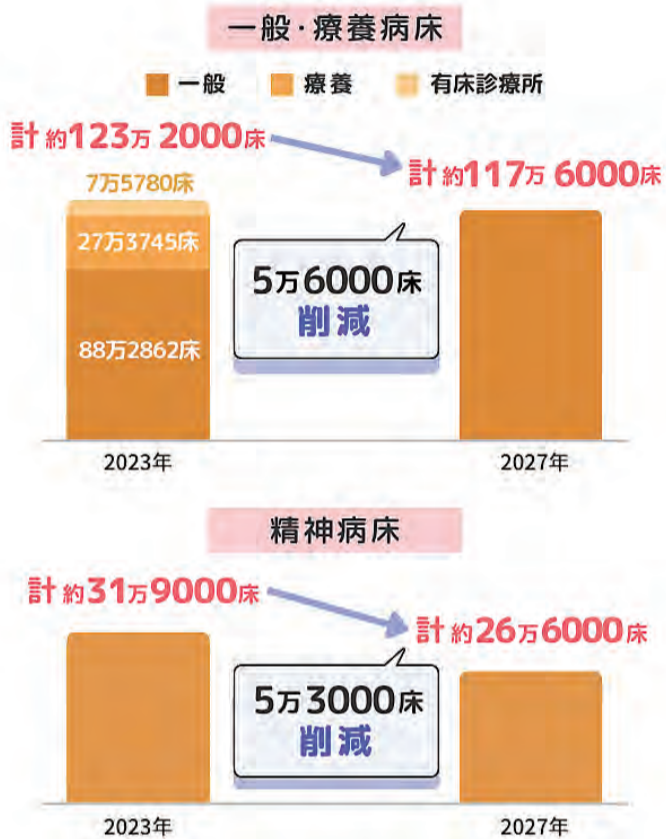
一方で、自民・維新の与党は、医療費4兆円削減に向け、OTC類似薬を含む薬剤の自己負担見直し、高額療養費負担上限の引き上げ、高齢者の窓口負担増、11万床の病床削減などの推進のために関連法案を特別国会に提案しています。

病床数適正化事業で病床削減1床あたり410万円の補助金によりすでに1.1万床が削減され、岐阜県でも231床が補助金活用で削減されています。令

和7年度の補正予算では、残りの10万床削減のために病床削減補助金として3,490億円の基金を確保しています。病床が余っているから削減すると言っていますが、入院稼働は100%の時もあれば60%の時もありま

### 薬の自己負担額増でいのちの危険も!

OTC類似薬の負担増についても、そもそもOTC薬というのはドラッグストアなどの薬局で医師の処方箋なしで買うことができる市販薬のことです。も



出典：厚生労働省「2023年医療施設調査」  
 自民党、公明党、日本維新の会「社会保障改革に関する実務者協議」(2025年6月6日開催)

重い病気を抱える患者さんの医療費負担が重くなりすぎないように、上限額を定めているのが高額療養費制度です。見直し案では、26年8月と27年8月の2段階で所得に応じて自己負担の月額上限を引き上げ、最大で38%も増やします。制度利用者

政府が決めた高額療養費制度の見直し内容

年収(概数)	月の自己負担上限(円)		年間上限
	2026年8月~	2027年8月~	
1650万~		34万2千	168万
1410~1650	25万2600	30万3千	
1160~1410		27万300	
1040~1160		20万9400	
950~1040	16万7400	19万4400	111万
770~950		17万9100	
650~770		11万7400	
510~650	8万100	9万8100	
370~510		8万5800	53万
260~370		6万9600	
200~260	5万7600	6万5400	
~200		6万1500	
70歳未満 住民税非課税	3万5400	3万6900	29万
70歳以上 住民税非課税	2万4600	2万5700	
70歳以上 一定所得以下	1万5千	1万5700	

※枠内は、実際にかかった医療費から一定額を引いた額の1%と表の額を足したものが上限になる

高額の療養費制度改悪にNO!  
 引き続き皆さんの運動で大軍拡をストップし、いのちとくらしが大切にされる政治の実現のために、地域から声を上げていきましょう。

### OTC 類似薬 自己負担増のイメージ



からは、限度額が引き上げられれば「治療をあきらめる」との悲痛な声が上がります。撤回を求め、軍事費ではなく、国民のいのちとくらしに税金を!  
 今、自民・維新の与党だけでなく、国民民主や参政党など多くの野党も国家を守るために防衛力の強化が必要として、憲法9条の改憲や際限のない軍事費の増加が叫ばれています。人のいのちや財産、人権をないがしろにしてまでも守るべき国家や日本とはいったい何なのでしょう。

一九五二年熊本県の山村で発生した殺人事件、その場所から「菊池事件」と呼ばれている。その犯人とされた男性は最後まで無罪を主張していたが、「特別法廷」で死罪となり一九六二年に執行されている▼「特別法廷」とはなにか。ハンセン病とされた男性が、裁判所ではなく、ハンセン病の療養所内で行われた法廷。十分な審議ではなく、差別と偏見の上の裁判であった。男性の死後も弁護団は再審請求を続けてきたが、今年一月二十八日に、熊本地裁は憲法違反を認めたにも関わらず再審請求を棄却した▼ハンセン病の偏見と差別、排除の政策が生んだ冤罪であると、ハンセン病の元患者や弁護士、市民らが粘り強く運動を続け国賠訴訟となった。弁護団は、凶器とされた短刀や親族の供述の矛盾点を指摘する鑑定書を新証拠として提出してきた。しかし四回目の再審請求も認められず、弁護団は即時抗告する方針▼一月二十九日の朝日新聞「天声人語」、新聞赤旗「潮流」が、この事件について言及していた。二つが共通していたのは、男性の短歌の引用であった。「澄み渡る空の青さよ真実の再審を寄せよ我は祈る」農家に生まれた男性は幼いころ父をなくし、小学校を二年で中退。逮捕後に読み書きを覚え、獄中で多くの詩歌をつくった▼一九四〇年代にハンセン病は完全に治癒でき、感染力の弱い病気となっているにも関わらず、ハンセン病に対する偏見と差別は根深く残っていた、これに基づく国の過ちをただし、このような冤罪をつくらせないためにたたかいは続く。(K)

